

## 県立龍野高等学校「創立記念日」に寄せて

県立龍野高等学校  
校長 駒田 勝

本竜野駅を出て揖保川方面に10m程歩くと、右側に「田中 静壹之墓地 西方二千米にあり」と刻まれた石柱が立っています。田中 静壹の名は『日本のいちばん長い日』（半藤 一利 著）を読んで知っていましたが、たつの市に所縁のある人物だとは知りませんでした。

また、校長室を整理していると『あゝ皇軍最後の日』（塚本 素山 著）と題されたパラフィン紙に包まれた一冊の上製本が出てきました。この本は田中 静壹の伝記であり、彼は龍野中学4回生とのこと。皆さんの大先輩であることを知りました。田中は、龍野中学を卒業後、陸軍士官学校、陸軍大学校等を経て、旧帝国陸軍で大将にまで上り詰めた人物です。終戦時には東日本の本土防衛を担う第12方面司令官兼東部軍管区司令官を務めていました。また、著者の塚本 素山こと塚本 清は、田中大将の専属副官として仕えた人物です。

ところで、太平洋戦争終戦の前日から15日にかけて一部の陸軍将校によるクーデターが画策され、終戦を阻止しようとした事件が起こります（宮城事件）。実は、この反乱をいち早く鎮圧したのが田中大将でした。もし、このとき天皇の肉声を録音した玉音盤が反乱部隊によって奪取されていれば、日本の歴史は全く違ったものになっていたかもしれません。そう考えると、日本の歴史の転換点において重要な役割を果たし、今日の日本の平和と繁栄の礎を築いた人物の一人が龍高の先輩であるとは、なんとも誇らしい限りです。

翻って、今、世界ではロシアのウクライナ侵攻や中東情勢の悪化等々、国際社会が築き上げてきた「平和の法と秩序」が大きく揺らぎ、力による支配が再び跋扈しようとしています。こうした時代にあるからこそ、世界の現状に目を向け、「平和とは何か」を私たち一人ひとりが考えることが必要であると、田中大将が語りかけているようにも思えます。

さて、本校は6月1日を創立記念日と定め、今年で創立129年目を迎えました。

明治30年、地元の要請と厚いご支援により、県下で4番目の中学校となる兵庫県龍野尋常中学校が開校しました。「質実剛健」を校是とし、校名は明治32年に兵庫県龍野中学校、同34年に兵庫県立龍野中学校と改称され、昭和23年の学制改革により兵庫県立龍野南高等学校となりました。

一方、明治39年には、女子教育の先駆けとして「勤勉力行、去華就実」を校是とした龍野町立技芸専修女学校が開校しました。その後、同42年に揖保郡立技芸女学校、同45年に揖保郡立実科高等女学校、大正7年に揖保郡立高等女学校、同11年に兵庫県立龍野高等女学校と改称され、さらに戦後の学制改革によって兵庫県立龍野北高等学校となりました。

そして、昭和23年9月1日、この南北両高等学校が統合され、兵庫県立龍野高等学校が誕生しました。統合後も生徒を一か所に収容できる施設がなかったため、南高校を本校に、北高校を分校として分散授業が続けられました。この後、昭和25年6月1日に北分校を廃止し、現在の場所で全学年の授業を始めたことから、この日を創立記念日と定めています。

このように明治から大正、昭和、平成、令和へと連綿と続く歴史の中で、龍中と龍女の不易の精神は時代を超えてなお引き継がれています。本校は「文武両道」を校是とし、校訓「向上、友愛、団結」のもと、これまでに4万有余名の有為な人材を輩出してきました。そして現在においても、校訓に基づき、確かな学力と豊かな感性・人間性の涵養に努め、他者への思いやりと優しさを持つ「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成を目指しています。

県立龍野高等学校には、129年の時を紡いできた歴史と伝統に裏打ちされた龍野高校ならではの『よき校風』があること。また、皆さん一人ひとりが、この『よき校風』を受け継ぐ「龍高生」であることを今一度自覚し、自らの在り方、生き方を考える一日にしてもらいたいものです。